

目次	会務報告 [第10回大会(神戸薬科大学, 2011年7月9 - 10日) 報告(その2)]	
	405
	日本地衣学会第10回大会に参加して/坂田歩美.....	405
	日本地衣学会第10回大会に参加して/川上寛子.....	406
	日本地衣学会評議員会議事録/木下 薫(庶務幹事).....	406
	日本地衣学会第10回大会総会報告/木下 薫(庶務幹事).....	408

会務報告 *Report of the JSL Activities*

第10回大会(神戸薬科大学, 2011年7月9-10日) 報告 (その2)

Report of the JSL 10th Annual Meeting at Kobe, 9 - 10 July 2011 (part 2)

日本地衣学会第10回大会に参加して

/坂田歩美(千葉県立中央博物館 共同研究員)

My Impression for the JSL 10th Annual Meeting at Kobe, July 2011 / by Sakata A.

梅雨明け宣言した翌日、神戸薬科大学で開催された日本地衣学会第10回大会に参加しました。記念すべき10回大会とのこともあり、どのプログラムも興味深いものばかりでした。

シンポジウムは「地衣学の過去・現在・未来」をテーマに4人の日本地衣学会を代表する先生方がお話をされました。服部植物研究所、吉村庸先生からは日本地衣学会が設立された経緯など貴重なお話を聞くことができました。千葉県立中央博物館、原田浩先生は日本産地衣類の分類の課題について、図鑑の改訂や未検討の分類群など課題はたくさんあり、プロ・アマ問わず研究できる体制が必要不可欠と熱弁されていました。最後に地衣類の生理学や生化学をテーマに明治薬科大学 高橋邦夫先生と秋田県立大学 山本好和先生からお話があり

ました。高橋先生は生理活性に着目し、山本先生は培養や極限環境耐性について地衣類の有用性を熱く語られました。学術奨励賞・受賞講演や特別講演も大変興味深い素晴らしい講演でした。一般講演は生理学、生化学、ゲノム解析、分類など様々な分野の発表がありました。私も発表しましたが緊張のあまり、早口でしゃべってしまい、持ち時間よりも随分早く発表を終えてしまいました。次回の筑波大学で開催される第11回大会では、落ち着いて発表に臨みたいです。

最後になりますが、日本地衣学会第10回大会に参加して地衣類の多様な魅力と可能性を再認識するとともに、リトマスゴケ科の分類学的研究を気力・体力が続く限りがんばり、地衣学の発展に少しでも貢献したいと思いました。

棚橋孝雄先生、竹仲由希子先生、神戸らしい素敵な学会をありがとうございました。懇親会のお料理も休憩時間にいただいたチョコレートやケーキもとてもおいしかったです。

日本地衣学会第10回大会に参加して

／川上寛子（秋田県立大学大学院・生物資源科学研究科・修士課程（博士前期過程）2年）

My Impression for the JSL 10th Annual Meeting at Kobe, July 2011 / by Kawakami H.

2011年7月9日から10日の2日間、神戸薬科大学で行われた日本地衣学会第10回大会に、私は一般講演者として初めて参加しました。初日に行われたシンポジウム「地衣学の過去・現在・未来」では、地衣類に関する知識を深めるとともに、日本地衣学会の歴史も感じる事ができました。平成14年に日本地衣学会が創立する以前からの、地衣類研究に対する先生方の情熱と多くのご尽力の結果、今の地衣学があることを知り、研究者を志す者として非常に感銘を受けました。

また、初日の懇親会から学会が終わるまで、先生方や参加していた学生と沢山の話ができて、私にとって非常に貴重な体験となりました。今までは高等植物のみを研究材料に扱っていて、昨年からは地衣類の薬理活性について

の研究を始めたため、日本地衣学会に参加したのは本大会が初めてでした。これまでは、参加者人数の多い学会に参加していたため、他大学の先生や学生と知り合う機会もあまり無く、学会の中で研究や学生生活について話をすることが難しいと感じていました。しかし、本大会に参加して日本地衣学会の温かい雰囲気を感じ、さらに、研究の相談にのっていただいた先生方に丁寧なご指導をしていただいたことから、研究を進める上で人とのコミュニケーションは非常に大切なものであり、多くの人の協力が無ければ研究は成り立たないことを実感することができました。これからは、積極的に自分から人との輪を広げ、活発な議論ができるようになっていきたいです。

最後に、私は来年の春から博士後期課程に進学して研究活動を続けていきますが、今回感じたことを大切にしてい、真摯に努力していきたいと思います。ありがとうございました。

日本地衣学会評議員会議事録 / 木下 薫（庶務幹事）

Report of the JSL Councilors' Meeting, at Kobe, July 2011/ by Kinoshita K.

日時 2011年7月9日, 11:00-12:50

場所 神戸薬科大学, K441講義室

参加者：（議長）高橋奏恵。（評議員）河原秀久, 川又明德, 小峰正史, 竹仲由希子, 原光二郎, 南佳典, (会長)高橋邦夫。（役員）木下薫, 木下靖浩。（編集委員長）原田浩。

① 日本地衣学会第9回大会・公開講演会（ニュースレター No.106, 107）

千葉県立中央博物館（千葉市），7月10日～11日（参加者：47名，公開講演会55名）

演題数：一般講演，公開講演会あわせて23題

懇親会は千葉駅近くの中華料理店（華樹）で開催され、40名が参加した。

内容

I. 2010年度事業報告

1. 会員数には、会費を支払っていない会員を含んでいる。

会員数は2010年12月31日現在：201名（一般121(+8), 学生41(+7), 海外一般18, 海外学生1, 有功1, 団体4, 名誉15) 昨年度より15名の増加であった。

2. 以下の報告が承認された。

(1) 主催大会

(2) 学会誌の刊行

① 学会誌 Lichenology 第9巻1号(7 / 30), 2号(1 / 31)

② 日本地衣学会Newsletter 発行, No. 101~107

③ 2010年度学術奨励賞を小杉真貴子氏に授与

(3) 委員会報告

(3-1) 地域活性化委員会

① 青空地衣教室

1) 第32回青空地衣教室 2010年4月17日実施,

- 千葉県市原市民の森（参加者：13名）
- 2）第33回青空地衣教室 2010年5月22日実施，神奈川県，箱根町箱根九頭竜の森（参加者：18名）
- 3）第34回青空地衣教室 2010年8月11日実施，秋田県 森吉山（参加者：7名）
- 4）第35回青空地衣教室 2010年10月30，31日実施予定，群馬県，奥利根（台風のため中止）
- ② ワークショップ（秋田県立大学）2010年8月7日～11日開催（参加者：9名）
- ③ 観察会
- 1）第9回観察会 2010年10月2，3日実施，島根県，裏匹見峡，広島県臥竜山（参加者：12名）

(3-2) 学術交流委員会，自然史学会連合，日本分類学会連合 対応，日本植物学会 対応せず。

(3-3) 日本の地衣フロラ解明プロジェクト，第2回地衣分類ワークショップ 2010年7月12日開催（千葉県立中央博物館）（参加者：12名）

(3-4) 選挙管理委員会における委員長，委員を指名選挙管理委員長 安斉唯夫，委員 坂田歩美（敬称略）

II. 2010年度決算報告・監査報告

報告は承認された。

III. 入・退会報告

入会について承認された。（退会者なし）

IV. 2011年度事業計画

- 主催大会，シンポジウム，プロジェクト
 - 日本地衣学会第10回大会（神戸薬大）大会ホームページ参照
 - 日本の地衣フロラ解明プロジェクト（「地衣分類ワークショップ」）
- 印刷物発行（編集委員会）
 - 学会誌 Lichenology 第10巻1号（8月予定），2号（12月予定）
 - 日本地衣学会Newsletter発行，No. 108～109
- 委員会報告
 - 地域活性化委員会
 - 青空地衣教室
 - 第36回青空地衣教室 2011年6月18日実施，千

葉県 鋸山日本寺（参加者：11名）

2）以下随時開催

② ワークショップ（秋田県立大学）2011年8月19～23日開催（観察会8月20日 鳥海山）

③ 観察会

1）第10回観察会 2011年9月10，11日実施，長野県伊那市 入笠山

(2) 学術交流委員会，自然史学会連合，日本分類学会連合 対応

(3) ホームページ運営委員会

(4) 日本の地衣フロラ解明プロジェクト，第3回地衣分類ワークショップ，2011年7月30-31日，千葉県立中央博物館開催

V. 2010年度予算案

予算案は承認された。

VI. 協議事項

- 学術奨励賞に関する内規の改定
- 国際学会対応委員会の設立およびそれに伴う会則の改訂

1. 学術奨励賞に関する内規（下線部を追記）

（7）受賞者は，受賞1年後以内にLichenologyに博士論文の内容に関連した著作を投稿しなければならない。また，大会で受賞講演を行うことが望ましい。ただし，受賞講演者に対する旅費は支給しない。

本内規は2011年7月10日より実施する。

2. 会則の改訂（下線部を追記）

第10条 本会に，次の役員を置く。会長1名，幹事若干名，評議員約6名，編集委員長1名，幹事2名，国際学会対応委員長1名。

第13条 （6）国際学会対応委員長は，外国との学会の連携をはかる。

本会則の改定は2011年7月10日より実施する。

4. 2011年度入／退会の承認（2011年7月10日現在）
2011年12月31日までの分はメールによる評議委員会にて承認することとした。

5. 2011年度学生発表B賞。

6. ホームページ運営委員会より，現在秋田県立大のサーバーを使用しているが，今後外部のものを利用する

ことが提案され、承認された。

7. 第11回大会は筑波大学（松井先生）にて行われることが決定した。

8. 学術奨励賞をLuo氏に授与することが、メールによる評議委員会にて承認された。これは、Luo氏が今年3月に「Studies on the Development of New

Anti-Alzheimer's Agents from Lichen Secondary Metabolites」で学位を取得され、担当教授のHur氏により日本地衣学会学術奨励賞に推挙されたことを受け、授与することが決定されたものである。口頭発表終了後、Luo氏に代わってHur氏に賞状と副賞をお渡しした。

日本地衣学会第10回大会総会報告 / 木下 薫（庶務幹事）

Report of the General meeting at 10th Annual Meeting of the Japanese Society for Lichenology, 9 July 2011 / by Kinoshita K.

日本地衣学会第10回大会総会を2011年7月9～10日、神戸薬科大学にて開催いたしました。日本地衣学会会長の高橋邦夫から挨拶があり、引き続き庶務幹事の木下が、当日午前中に開催された評議委員会で報告されたこと、審議、承認されたことについて報告いたしました。数名の方よりご質問を受け、答えさせていただきました。また、次回第11回大会開催を筑波大学の松井敏也先生にお願いすることになりました。さらに、Luo氏に日本地衣学会学術奨励賞を授与することを報告いたしま

した。また学生発表B賞（日本地衣学会大会で口頭で2回の発表を行った学生会員に与えられる）の6名の受賞者〔下野優子（関西大）、吉谷梓（秋田県立大）、草間裕子（秋田県立大）、新井靖子（明治薬大）、Jung A Kim (Korean Lichen Res. Ins.)、Le Hong Duy（神戸薬大）〕についても報告いたしました。以上、皆さまのご協力を得まして滞りなく総会を終了することが出来ました。

●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌 102号 378ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 102, p. 378 of this publication.

●*Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 110, pp. 405-408; eds. Harada H. & Kinoshita K., published by *the Japanese Society for Lichenology*, 30 November 2011.

日本地衣学会ニュースレター 110号

発行日：2011年 11月 30日

編集：原田 浩・木下 薫

発行者・発行所：日本地衣学会

〒203-0021 東京都清瀬市野塩 2-522-1

明治薬科大学 生薬学教室内

©2011日本地衣学会 (© 2011 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複写等は固くお断りいたします。